No.16

移住者ってどんなひと？

南相馬の

かっこいい

おとな手帖

東京都 → 南相馬市

おとな手帖

No.16

レールから外れても選択肢は無限

縁でつながるコミュニティでの仕事

今回のかっこいい大人

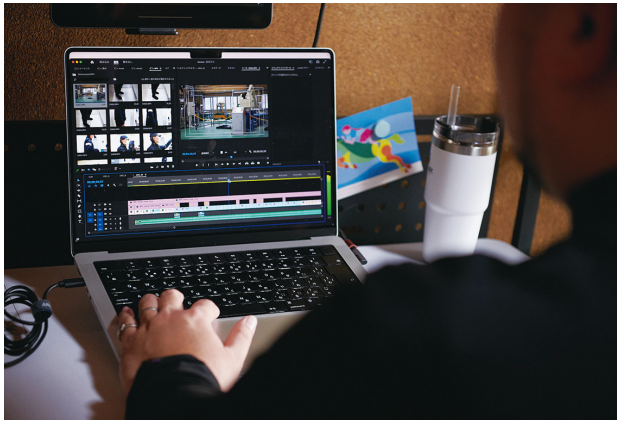
小波津（こはつ） 龍平（りょうへい）さん（35）

沖縄県西原町生まれ

お仕事　合同会社クムト　ディレクター

移住歴　2021年～

18歳	23歳	26歳	30歳	32歳
進学で山梨県へ。教員を目指し、（文学部）初等教育学科に入学	埼玉県草加市でフリーターとして暮らす	日本大学芸術学部の映画学科に入学	CM制作会社に就職	南相馬市に移住



動画の編集は小波津さん担当。

多岐に渡る仕事をデザイナーの樋口さんと一緒に進める。

高校生記者が

小波津さんにQ&A聞いてみた！

Q1. 現在の仕事と暮らしについて教えてください。

A. 地元企業のWebサイトやWebサイト用の動画の作成、地元の方々が作った商品のラベルのロゴなどをブランディングしています。地域密着型で仕事をすることが多いです。仕事とプライベートの距離が近く、人との繋がりがそのまま仕事に結びつくこともあります。その点は、移住先が南相馬市でよかったなと思いました。

暮らしの面でも感じることですが地域コミュニティが一度ゼロになっても、帰ってくる人がいて、もう一度盛り上がっています。人の循環があり、他の地域から入ってきた人に対してもオープンな雰囲気があるんです。南相馬市はいろいろな人が出入りしていて、私が以前住んでいた場所よりも人と関われています。たくさんのことを吸収できるので、とても刺激的な毎日です。

Q2. 今の仕事に就くまでの経緯を教えてください。

A. 私の妻の実家が南相馬にあって、彼女のUターンについてきました。その後、広告に携わっていた経験を買ってもらい、クムトという合同会社を代表の樋口と設立しました。学生の頃に考えていたレールからは外れていますが、仕事もプライベートも楽しく充実しています。

大学に通っていた頃、同級生たちは「こうならなければいけない」「この道に進まなきゃいけない」という固定観念を持っている印象を強く受けていました。けれど実際は「こう生きなければいけない」という決まりはなくて、もっといろいろな選択肢があります。高校生から見える選択肢は、まだ少ないかもしれません。もちろん一つの道を突き詰めるのもいいことですが、自分の楽しい道を気楽に見つけてほしいです。

わたしが記事にしました！

編集後記

藤木 千尋（ちひろ）
原町高校２年

映像を作る人間として、参考にしたい事を聞けて嬉しかったです。自分のやりたいことを実現するためにレールから外れていいというお話が深く心に刺さりました。そこには強い覚悟が必要だとは思いますが、私も自分の楽しい道を見つけられるよう、精進したいです。

小波津さんの暮らし・仕事について
さらに詳しく！
Webサイトの記事はこちら→

My favorite Minamisoma
南相馬のお気に入り

発達のトイレ
Hattatsu's restroom

原町区にあるサウナ「発達」はすごく面白いです。中でも、壁一面が漫画のコマでびっしり埋め尽くされているトイレが好き。いろいろな漫画家の作品がコラージュされていていて、よく読むとストーリーになっているらしいですよ。サウナに入った後、併設している川口商店でごはんを食べるところまでがセットです。

OKINIIRI

移住者ってどんなひと？南相馬のかっこいいおとな手帖って？

南相馬市には他地域から移住し、自分らしくかっこよく働くおとなたちがたくさん暮らしています。
彼らが「今、ここにいる理由」はさまざま。夢を叶えるため、誰かと共に生きるため……。それぞれの物語を紐解いていくと、多様な南相馬の魅力に気づきます。
「移住者」に会いに行くのは、南相馬市で育った高校生たち。自分たちには当たり前の環境も、移住者のみなさんの視点を借りると、なんだか違って見えてくる!?

Publisher：南相馬市役所　移住定住課
Direction：marutt Inc.
Editor：小野民、蒔田志保、藤木千尋、大井紀葉
Designer：高木市之助
Photographer：鈴木穣蔵

南相馬で自分らしい暮らしを
実践している先輩移住者がたくさん！

南相馬市 移住者インタビュー Webサイトはこちら→